

情報革命で人々を幸せに



2024年3月

ソフトバンクグループ株式会社(東証プライム市場 9984)

1

会社概要

2

FY23Q3決算ハイライト

3

アーム

4

SVF

5

財務戦略

6

サステナビリティ

会社概要

(2023年3月末)

| | |
|------------------|-------------------------|
| 商号 | ソフトバンクグループ株式会社 |
| 設立年月日 | 1981年9月3日 |
| 本社所在地 | 東京都港区海岸1-7-1 |
| 代表取締役会長 兼 社長執行役員 | 孫 正義 |
| 連結従業員数 | 約6.3万人 |
| 証券コード | 東京証券取引所 プライム市場(9984) |
| 単元株式数 | 100株 |

株価 9,014円

時価総額 13.3兆円

格付 (長期発行体格付)

日本格付研究所 (JCR) A-

S&P BB

※ 株価および時価総額:2024年3月7日時点



経営理念



情報革命で人々を幸せに



ソフトバンクの事業変遷 – グローバルな投資持株会社に

変わらぬビジョン:「情報革命で人々を幸せに」

事業会社

投資持株会社

孫正義がソフトバンクを
立ち上げ。名前の由来
は「ソフトウェアの銀行」



PCソフトの卸売業
1981年創業



パソコン時代の
到来

1996年:ヤフー事業開始
2000年:アリババへの投資



インターネット・ブロードバンド事業
1996年 ~ 2005年



日本のブロードバンドの
普及をサポート

2001年:Yahoo! BB
ADSL事業開始
2004年:日本テレコム買収



PAN TEL (

2005年:
ホークス買収



2008年:
iPhone発売
(日本初)

2006年:
ボーダフォン
ジャパン買収

SoftBank



モバイルブロードバンド
2006年 ~ 2014年



モバイル事業を通じて
生活を豊かに

2014年:
アリババグルー
プ上場

oup

2013年:
米国スプリント
買収

2016年:
英国半導体設計大手
アーム買収

arm

2018年:
SBKK上場

SoftBank

2017年:SVF1始動
2019年:SVF2始動

2023年: Arm
ナスダックに再上場

arm

2020年: スプリント、
T-モバイルと合併

SoftBank / T-Mobile

Data and AI
2015年以降



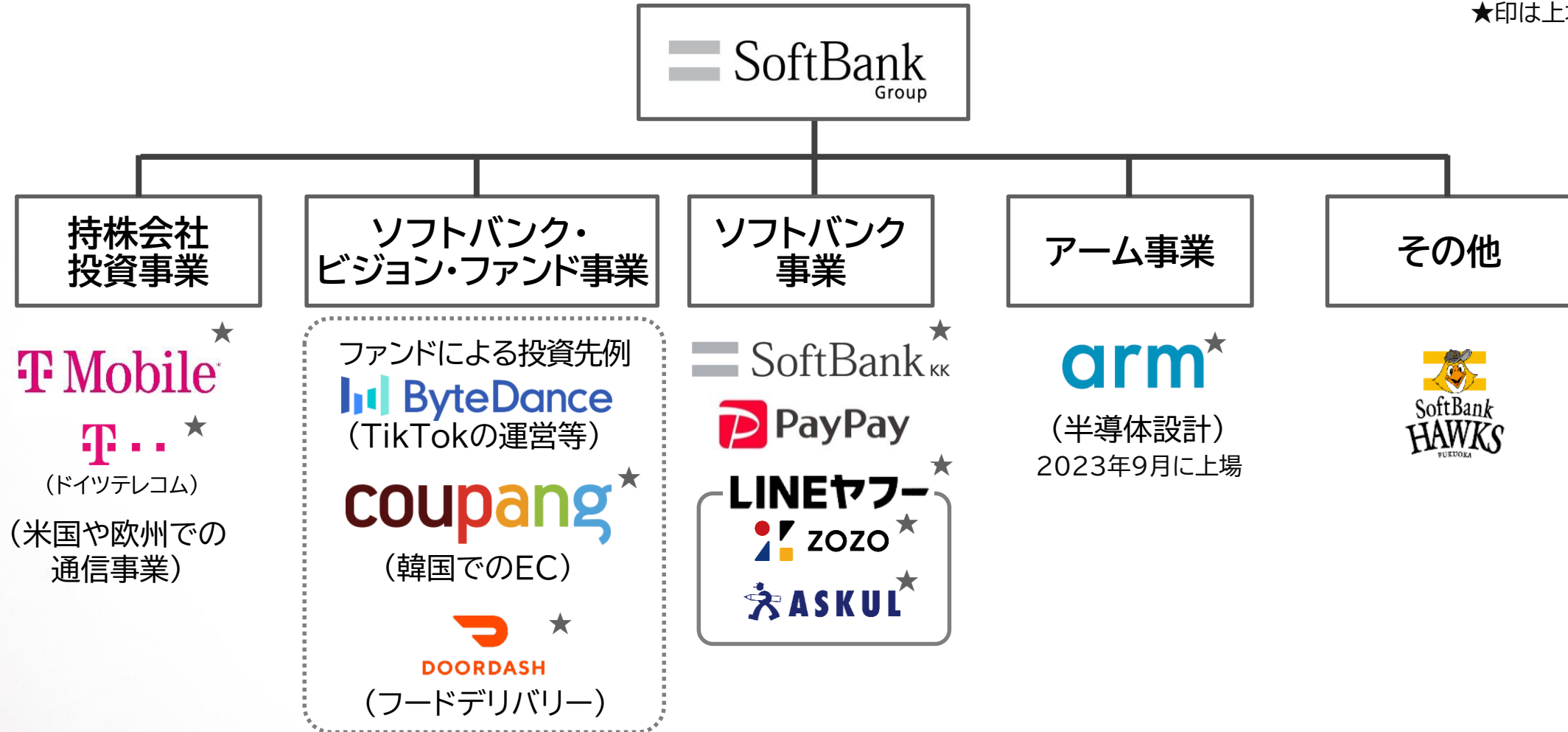
AI革命の
実現に向けて

SBKK:ソフトバンク SVF:SoftBank Vision Fund

事業セグメントおよびグループ企業

幅広い業種・地域に展開する企業群

2023年10月1日現在
★印は上場企業

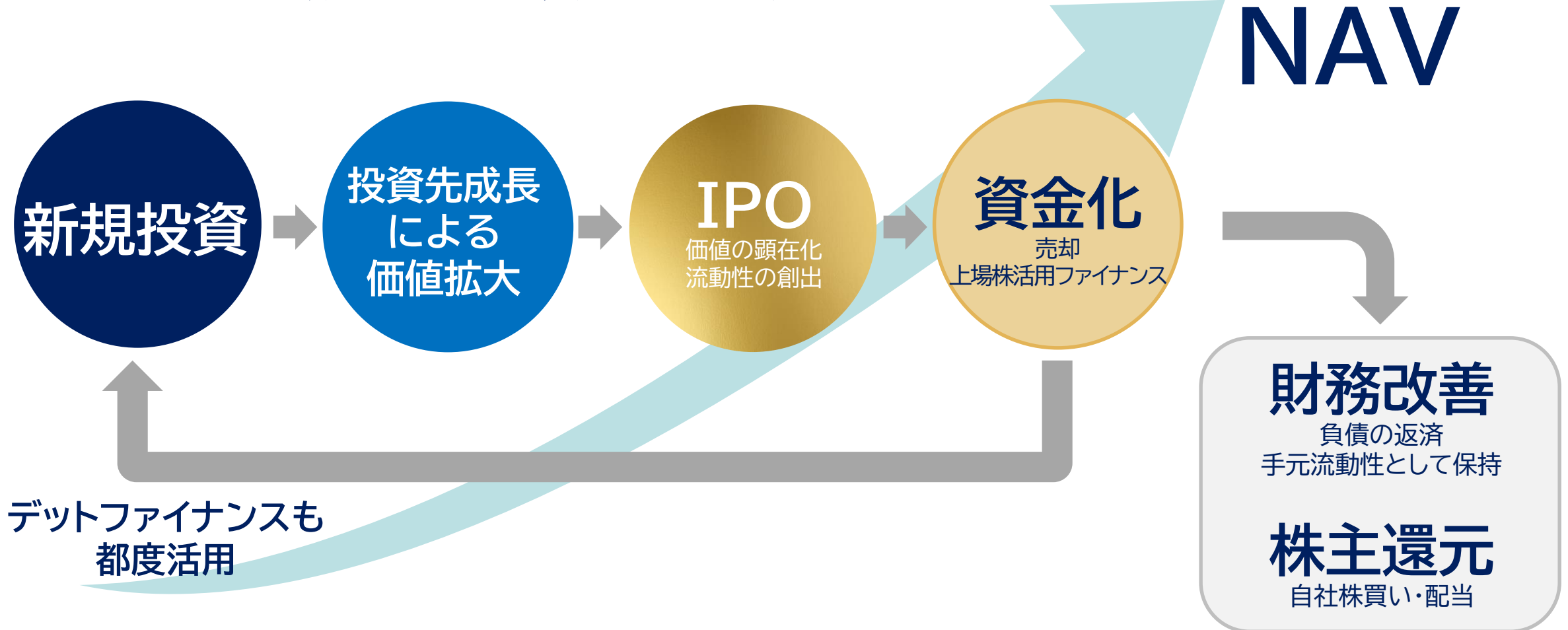


当社の成長戦略

投資サイクルを繰り返しながらNAVを拡大

IPOはあくまで企業の成長の通過点

一方、価値の顕在化および資金化の柔軟性を高めるうえで有効



1

会社概要

2

FY23Q3決算ハイライト

3

アーム

4

SVF

5

財務戦略

6

サステナビリティ

連結業績 (四半期)

(億円)

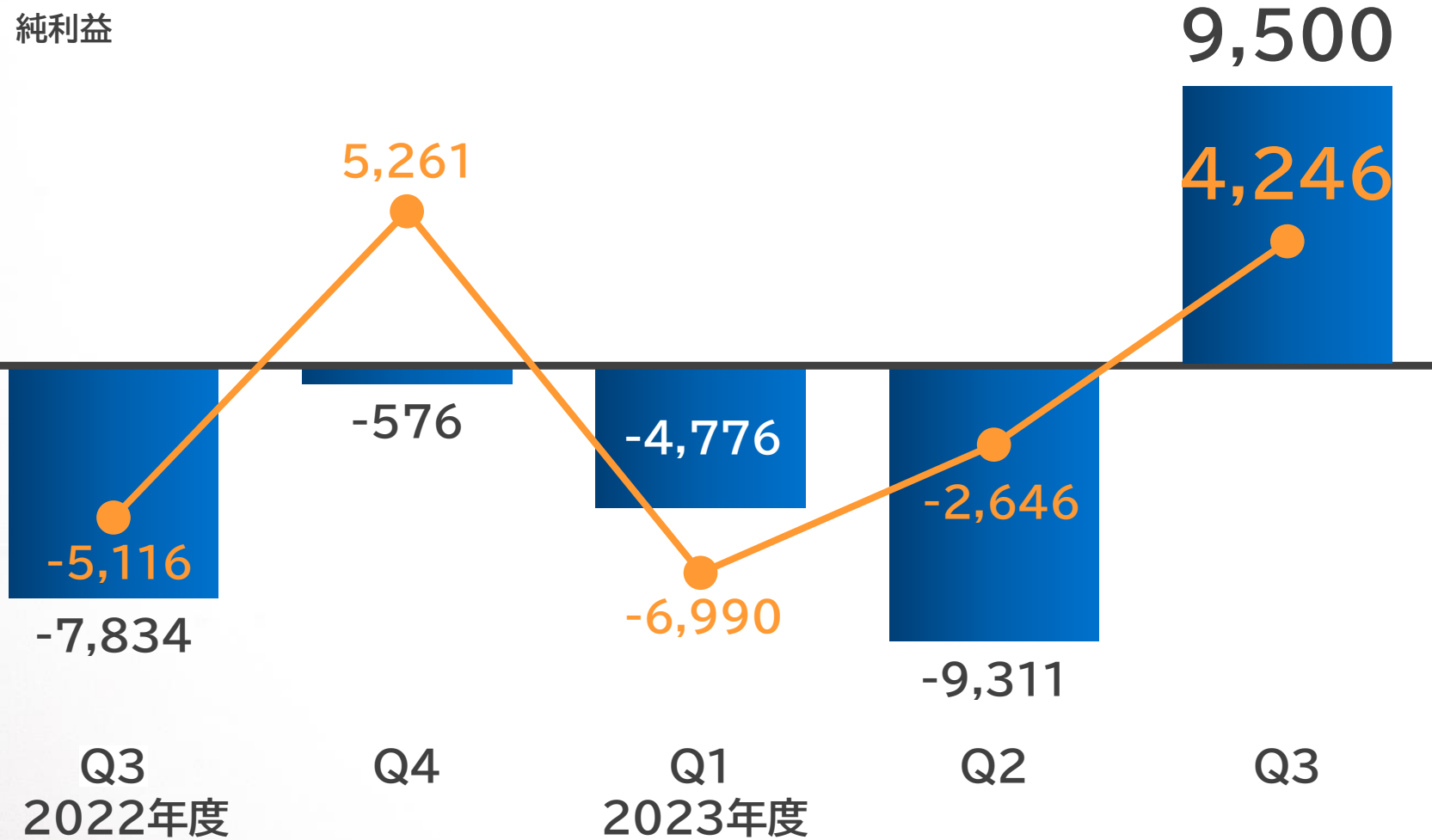
| | 2022年度 Q3 | 2023年度 Q3 | 増減額 |
|-------|--------------|--------------|---------|
| 売上高 | 16,933 | 17,748 | +815 |
| 投資損益 | -5,116 | 4,246 | +9,362 |
| 税引前利益 | -5,827 | 11,715 | +17,542 |
| 純利益 | -7,834 | 9,500 | +17,334 |

投資損益および純利益 (四半期)

(億円)

● 投資損益

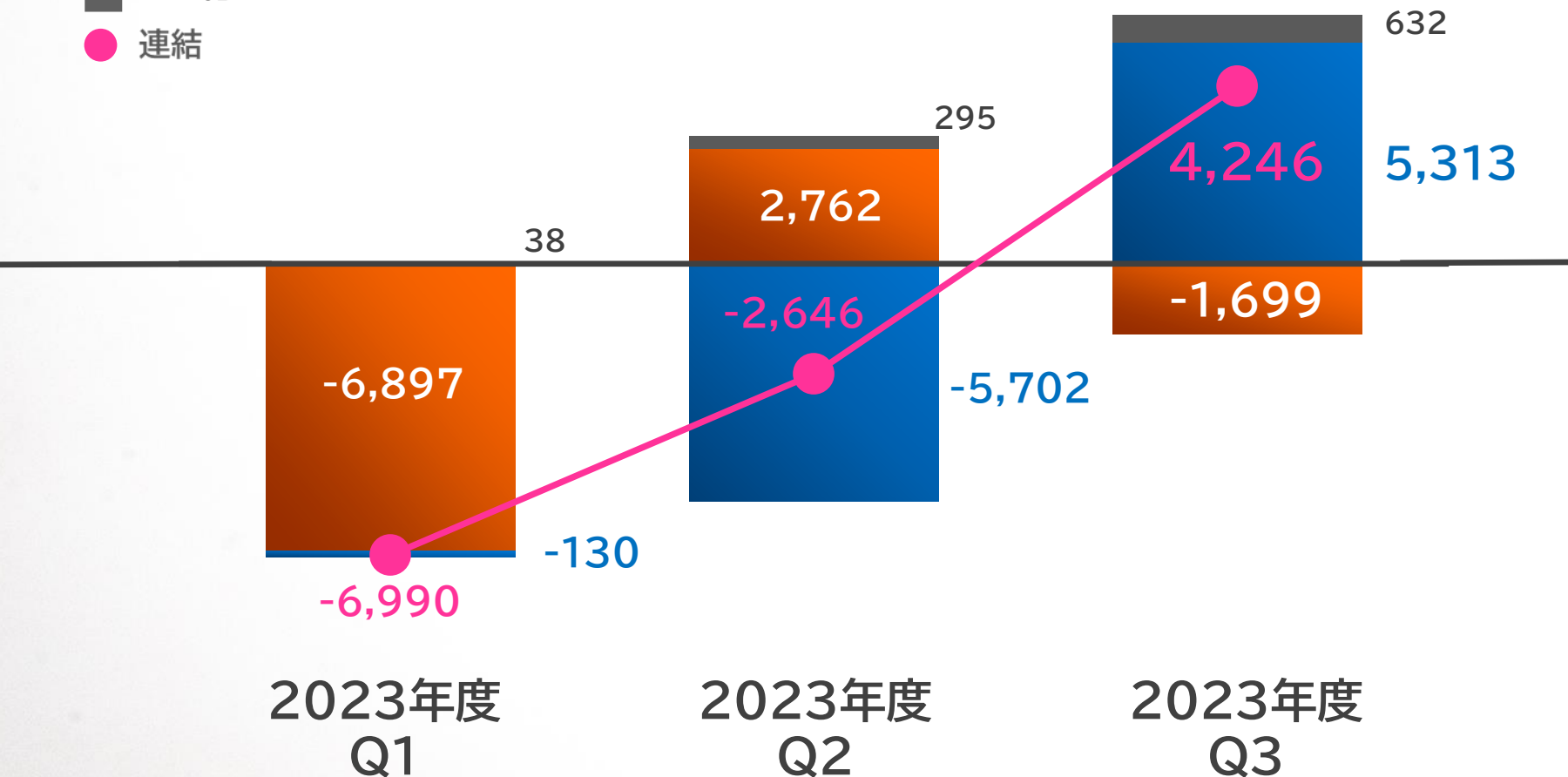
■ 純利益



投資利益が
純利益の大幅
改善を牽引

投資損益 (2023年度 四半期推移)

(億円)



連結投資損益 黒字転換

条件付対価
(合併対価の一部)

45日間の出来高加重平均 \geq \$149.35
の条件を2023年12月22日に充足



48.8百万株(1.1兆円相当)を無償で取得

2023年度Q3(四半期)におけるP/L投資利益計上額:3,161億円

Tモバイル株式の取得:当社子会社であったSprint Corporationは、2020年4月1日にT-Mobile US, Inc.と合併し、当社はその対価としてTモバイル株式及び条件付対価を受領。条件付対価は一定の条件を満たした際に、当社がTモバイル株式48,751,557株を追加での対価なしに無償取得できる権利。
Tモバイル株式:NASDAQ Global Select Marketにおける同社普通株式
一定の条件:2022年4月1日から2025年12月31日の期間に、Tモバイル株式の45日間の出来高加重平均が149.35ドル以上となった場合
詳細は、2023年12月26日付当社プレスリリース「条件付対価の条件充足に伴う、Tモバイル株式48.8百万株(1.1兆円相当)の無償での取得に関するお知らせ」参照

重要指標

2023年9月末

2023年12月末

NAV
(時価純資産)

16.4兆円

19.2兆円

LTV
(純負債／保有株式価値)

10.6%

11.5%

手元流動性

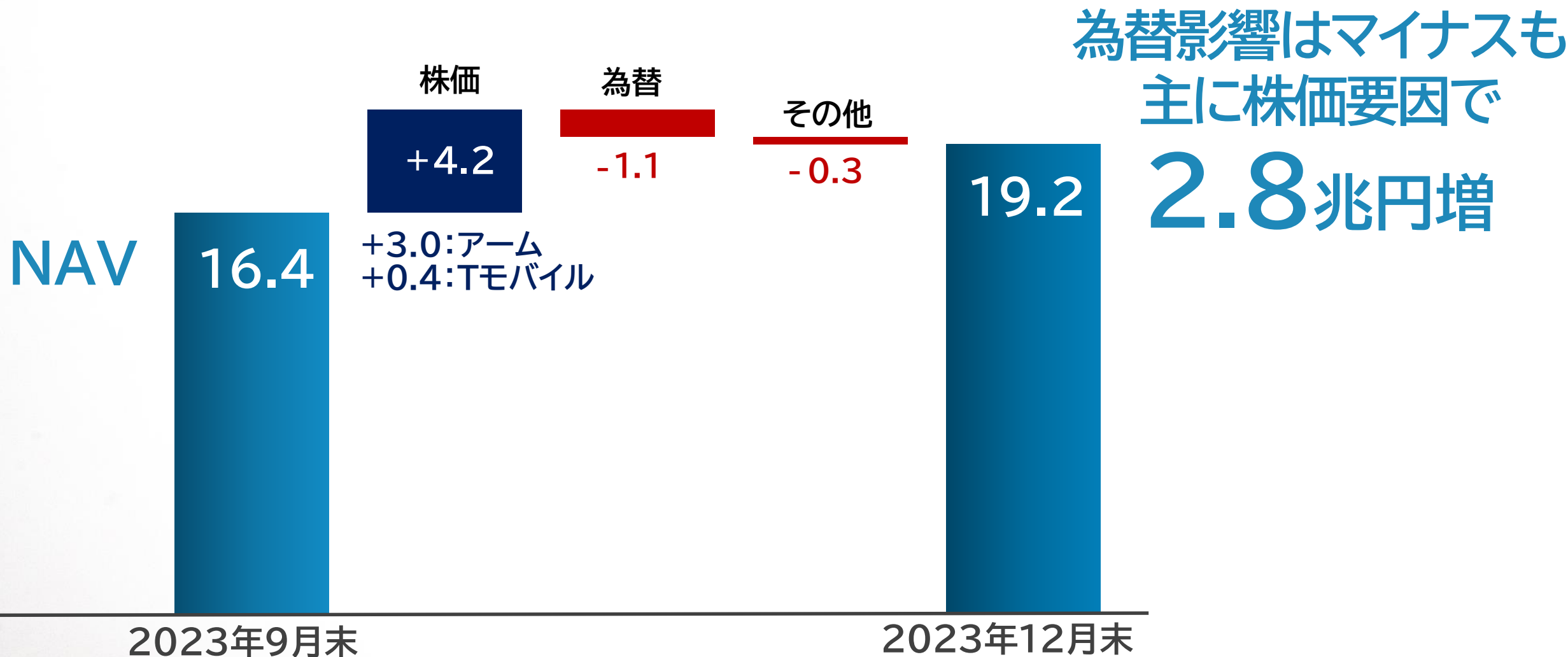
5.1兆円

4.4兆円

NAVおよびLTVの詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年9月末時点)」「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年12月末時点)」を参照
手元流動性=現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+債券投資+コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く。ただし現金及び現金同等物並びに債券投資は含む。)

NAV増減要因

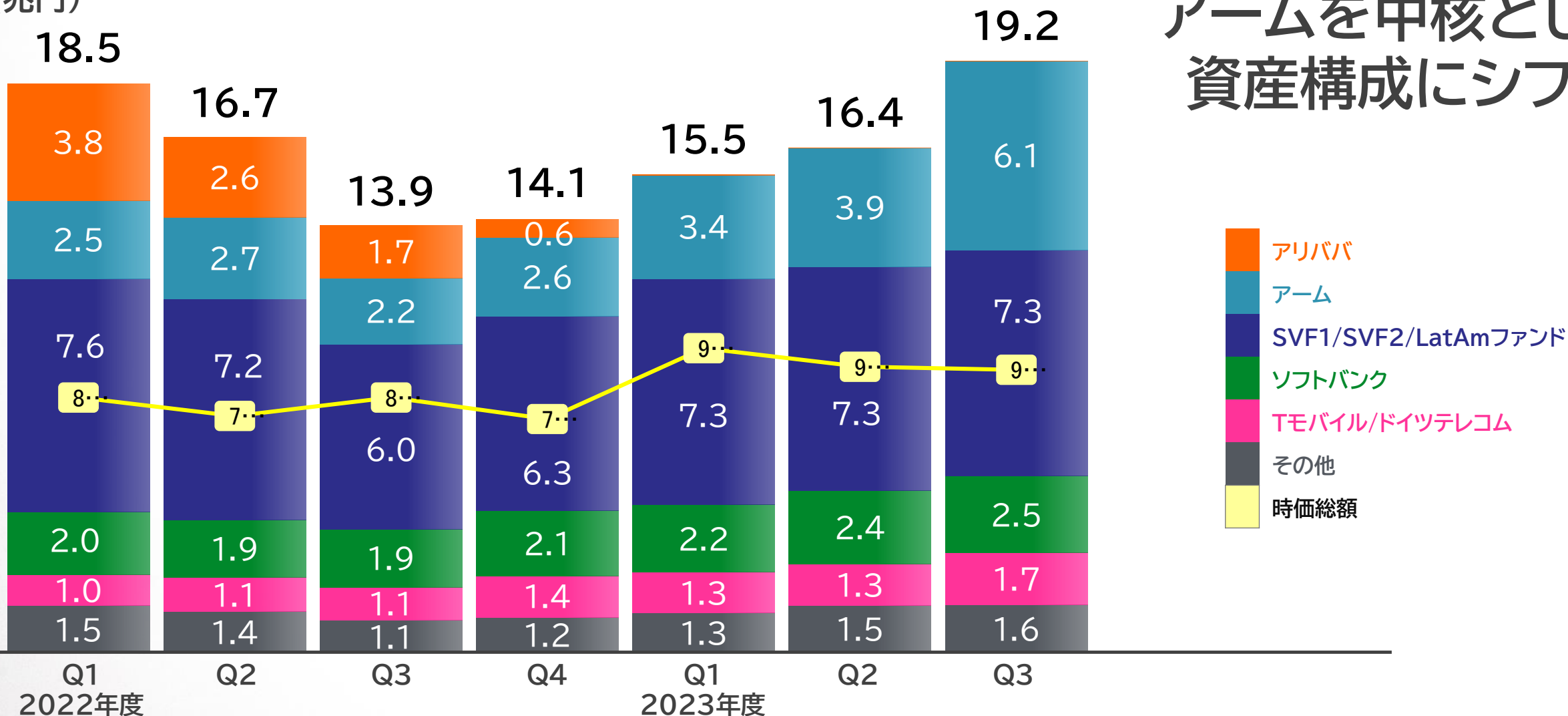
(兆円)



NAV構成の変化

アリババから
アームを中核とした
資産構成にシフト

(兆円)

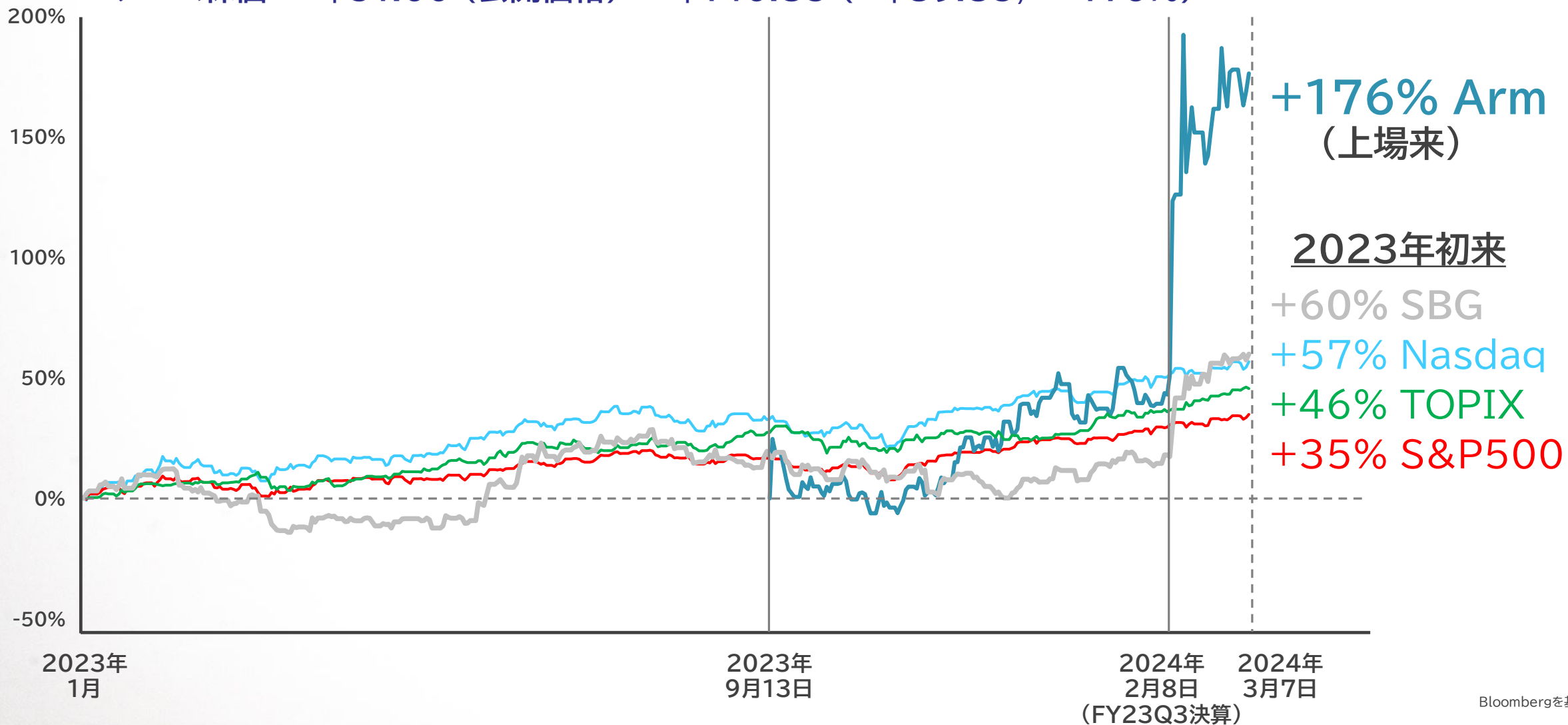


各四半期末時点の保有株式価値の割合で按分
NAVの詳細は、各四半期決算説明会プレゼンテーション資料に記載の「NAV・LTVの定義及び算出方法」を参照
NAVに関する情報は、推移のイメージを説明する目的で提供される参考株主値であり、将来のNAVを保証・示唆するものではない

2023年初来の株価値上がり率

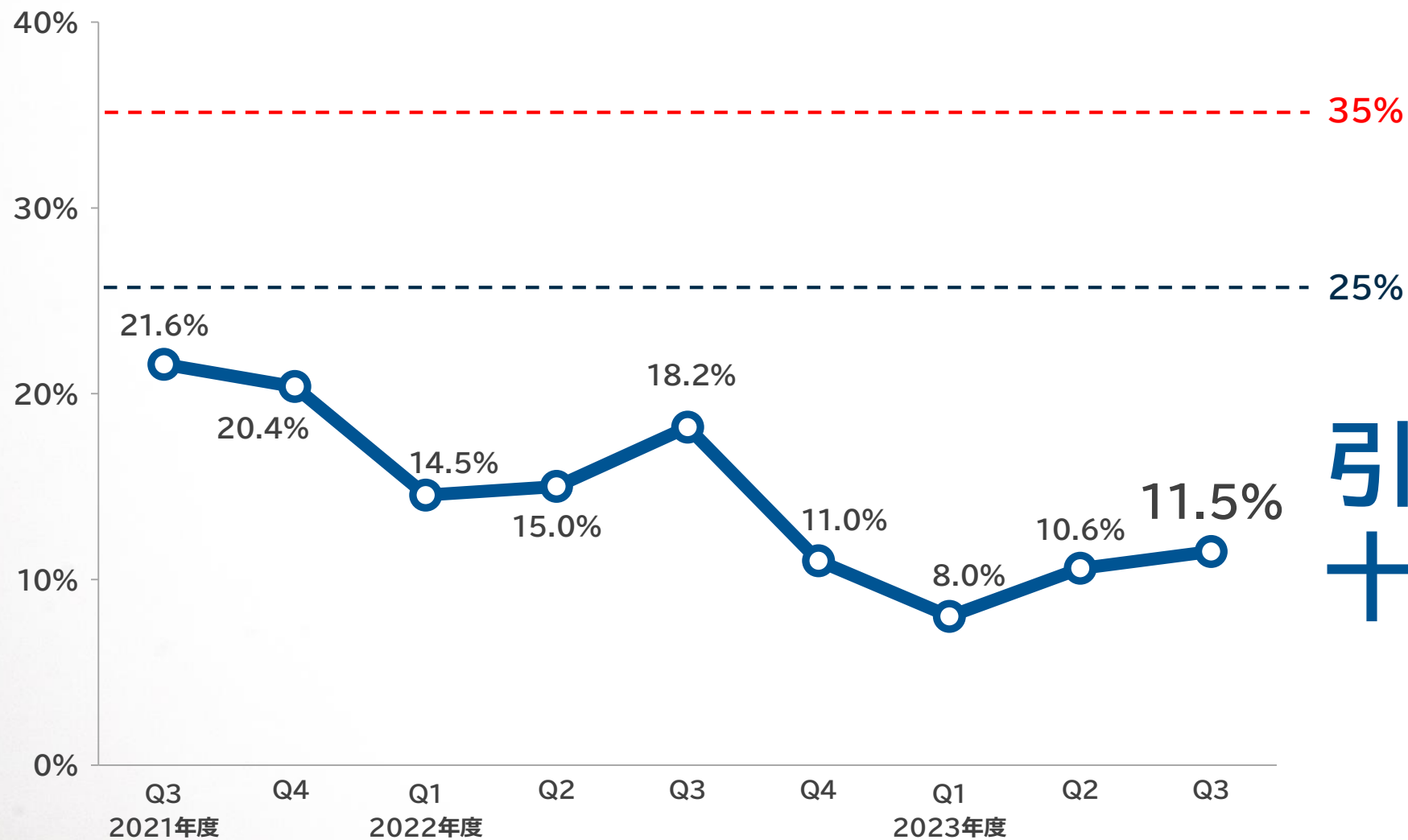
SBG株価 : 5,640円 → 9,014円 (+3,374円; +60%)

アーム株価 : \$51.00 (公開価格) → \$140.85 (+\$89.85; +176%)



LTV

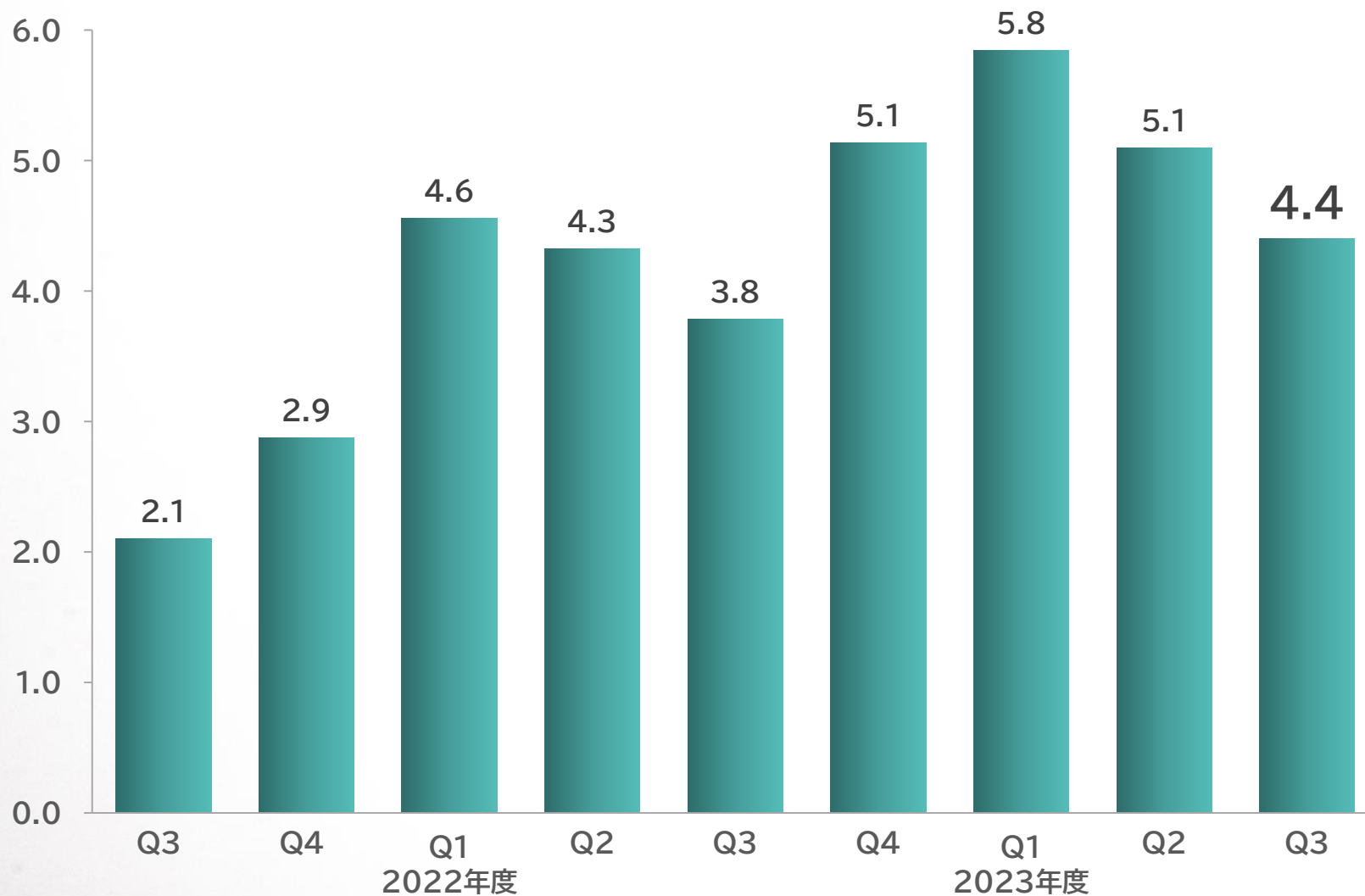
アセットバック・ファイナンス除く



引き続き低水準
十分な調達余力

手元流動性

(兆円)



高水準を維持

各四半期末時点
手元流動性 = 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資 + 債券投資 + コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース (SB Northstarを除く。ただし現金及び現金同等物並びに債券投資は含む。)

1

会社概要

2

FY23Q3決算ハイライト

3

アーム

4

SVF

5

財務戦略

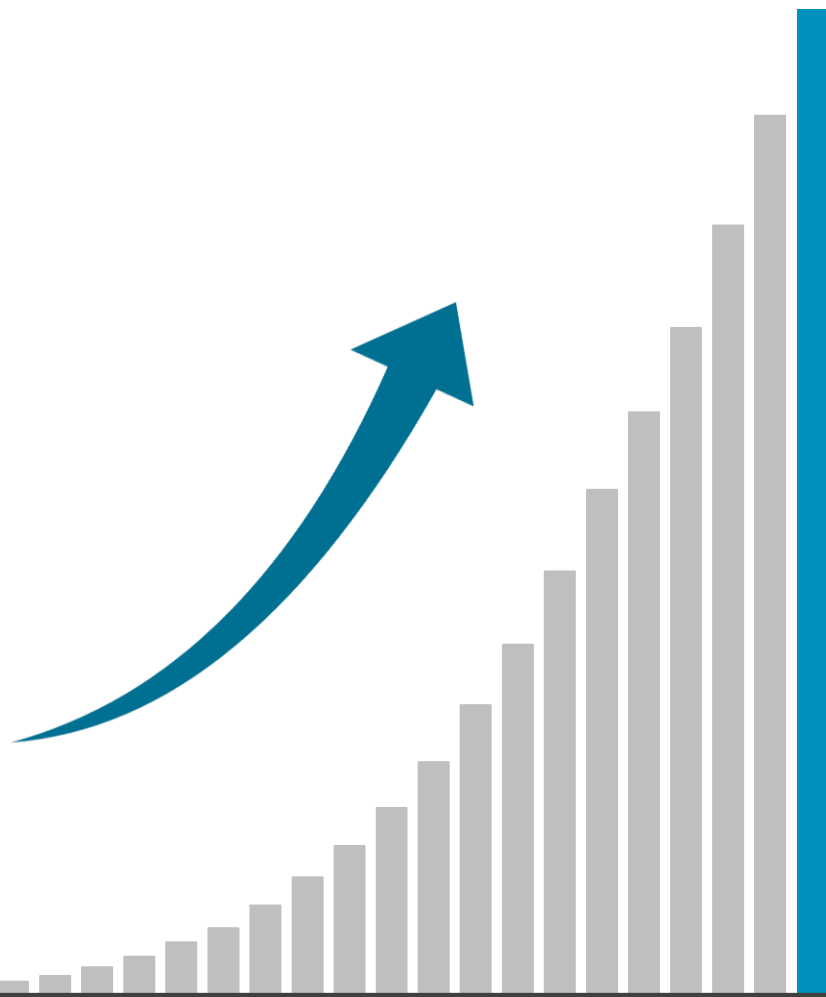
6

サステナビリティ

アームベースチップ累計出荷数



(億個)



2023年9月までの累計出荷実績

2,800億個超

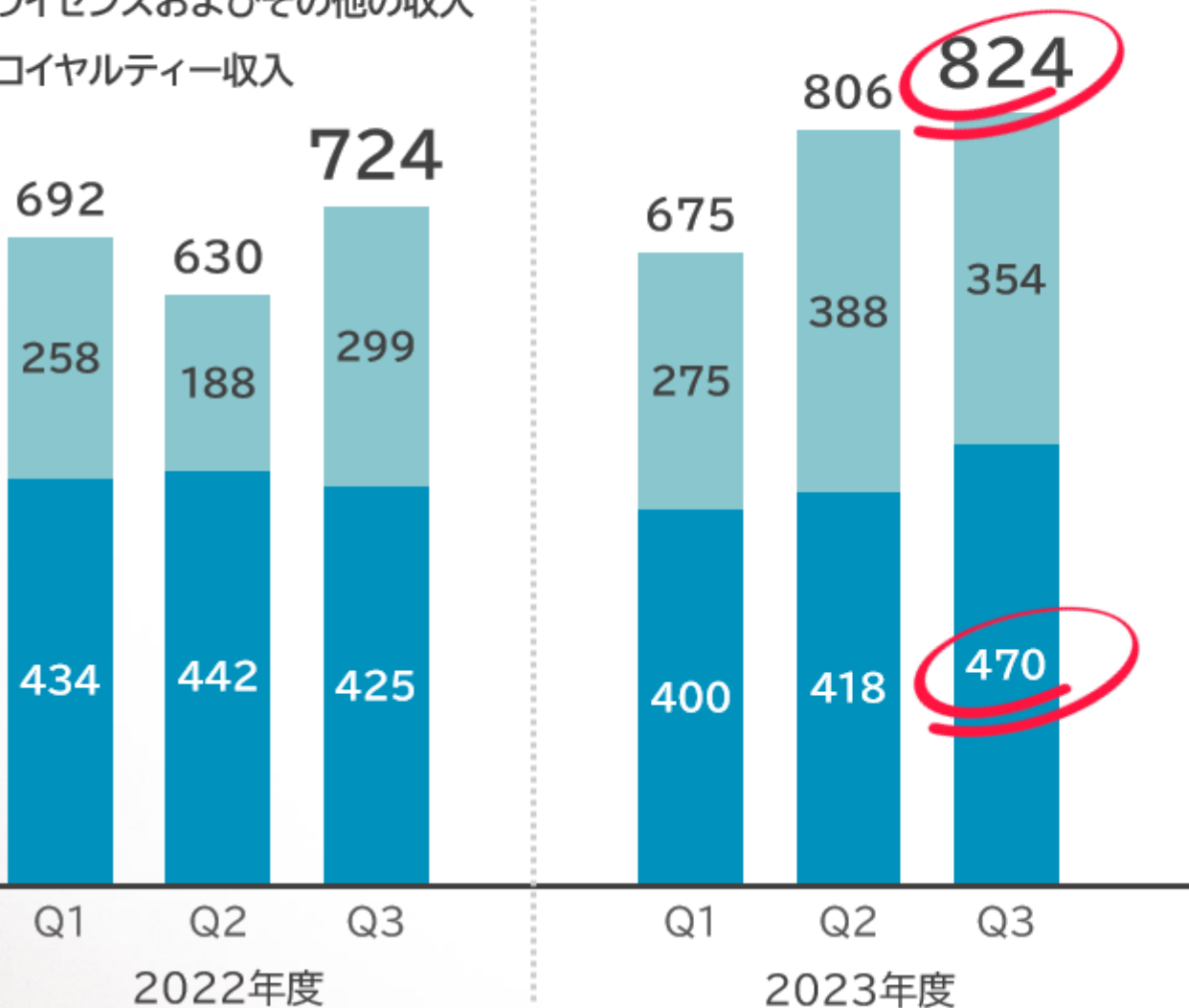
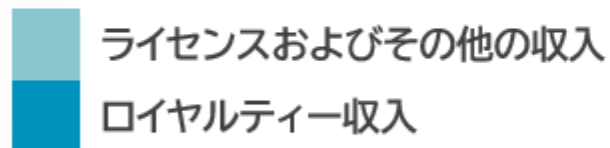
1990年

2023年(各年9月末時点)

(出所) Arm
アームベースチップの出荷実績は、出荷の発生から1四半期遅れてライセンスから報告を受けるため、本項には2023年9月までの実績を掲載。

四半期売上高（米国会計基準）

(\$ M)



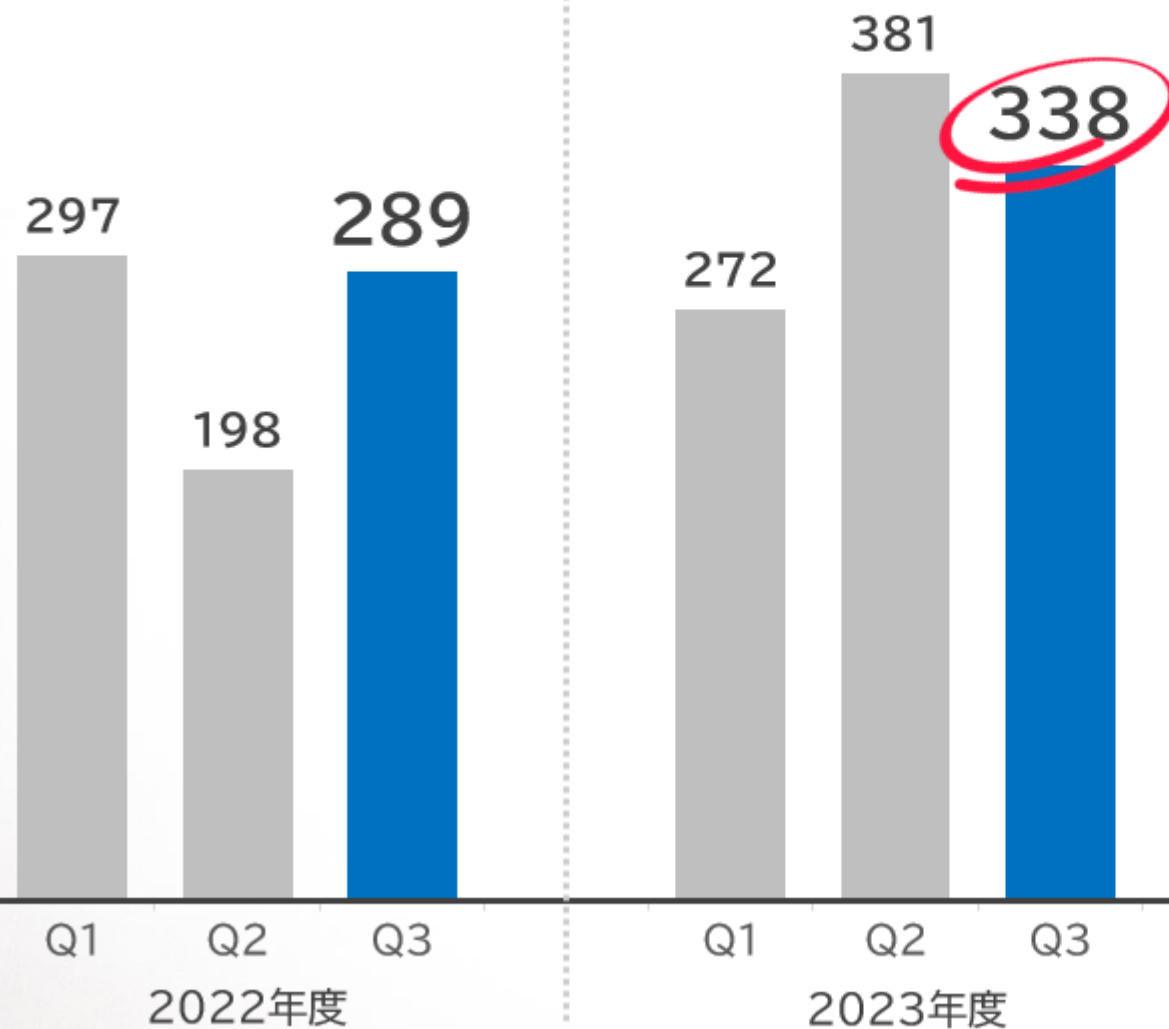
売上高
引き続き過去最高

ロイヤルティー収入
過去最高

(出所) Arm
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照
「ライセンスおよびその他の収入」は「ロイヤルティー収入」以外の収入を指す。

四半期調整後営業利益（米国会計基準）

(\$ M)



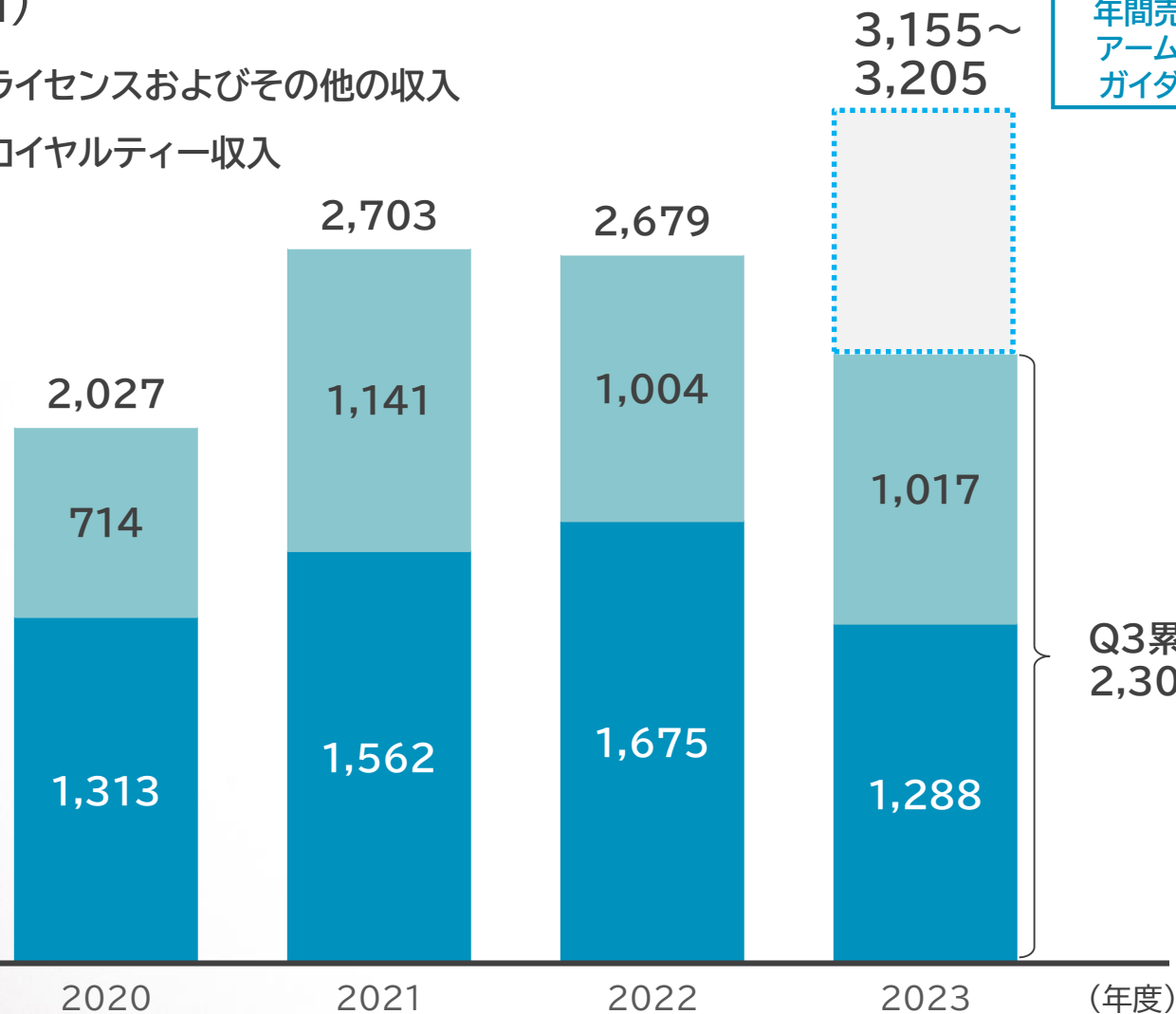
前年同期比
17%増

(出所) Arm
調整後営業利益は「Non-GAAP Operating Income」を示す。GAAP基準数値とNon-GAAP数値
間の差異については、アームの「FYE24-Q3 Shareholder Letter」を参照
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

年間売上高（米国会計基準）

(\$ M)

ライセンスおよびその他の収入
ロイヤルティー収入



年間売上高
アーム発表
ガイダンス

Q3累計実績
2,305

堅調に推移

(出所) Arm
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照
「ライセンスおよびその他の収入」は「ロイヤルティー収入」以外の収入を指す。

売上高通期ガイダンスを上方修正

| | 2023年度 Q4（予） | 2023年度 通期（予） |
|--------------------|----------------------|--|
| 売上高 (参考:旧ガイダンス) | \$850M - \$900M - | \$3,155M - \$3,205M (\$2,960M - \$3,080M) |
| 調整後営業費用 | \$490M程度 | \$1,700M程度 |
| 調整後EPS (完全希薄化後) | \$0.28 - \$0.32 | \$1.20 - \$1.24 |

（出所）Arm
 調整後営業費用は「Non-GAAP operating expense」、調整後EPS(完全希薄化後)は「Non-GAAP fully diluted earnings per share」を示す。
 第2四半期に報告された第4半期の調整後営業費用のガイダンスに含まれていた、第4四半期に発生する株式報酬の権利確定に関連する雇用税とこれらの税金に対する究開発税額控除を差し引いた純額は、
 本調整後営業費用のガイダンスには含めていない。
 詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

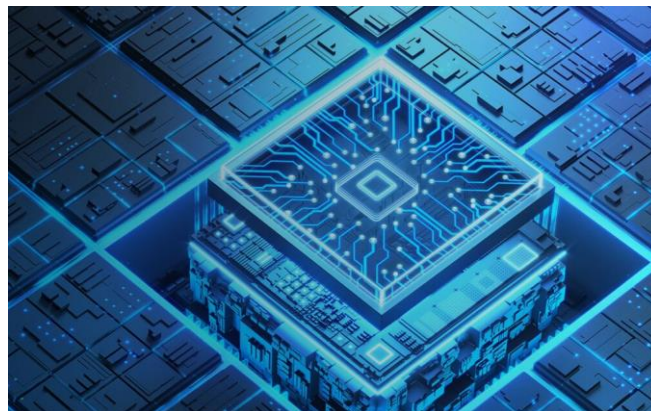
アームの更なる成長ドライバー

ロイヤルティ収入



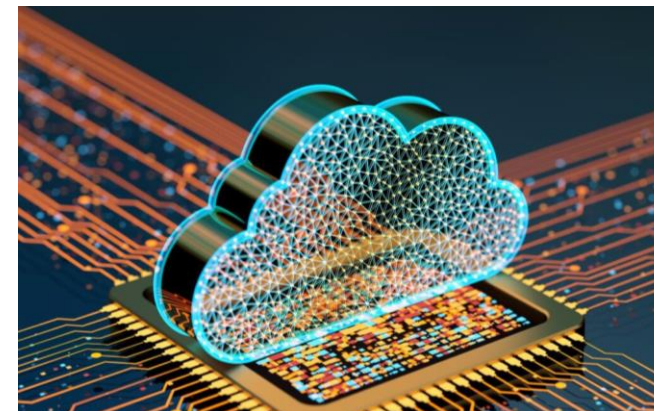
高まる需要に伴う
ロイヤルティ収入の増加

複数のIPコアを組み合わせた「サブシステム」



顧客の開発コストを低減し
市場投入期間を短縮

AI需要の拡大



AIに不可欠なエネルギー効率
が高く、高性能なチップ設計

アームベースチップの関係企業で構成された
世界最大級のネットワーク

ロイヤルティ収入による成長

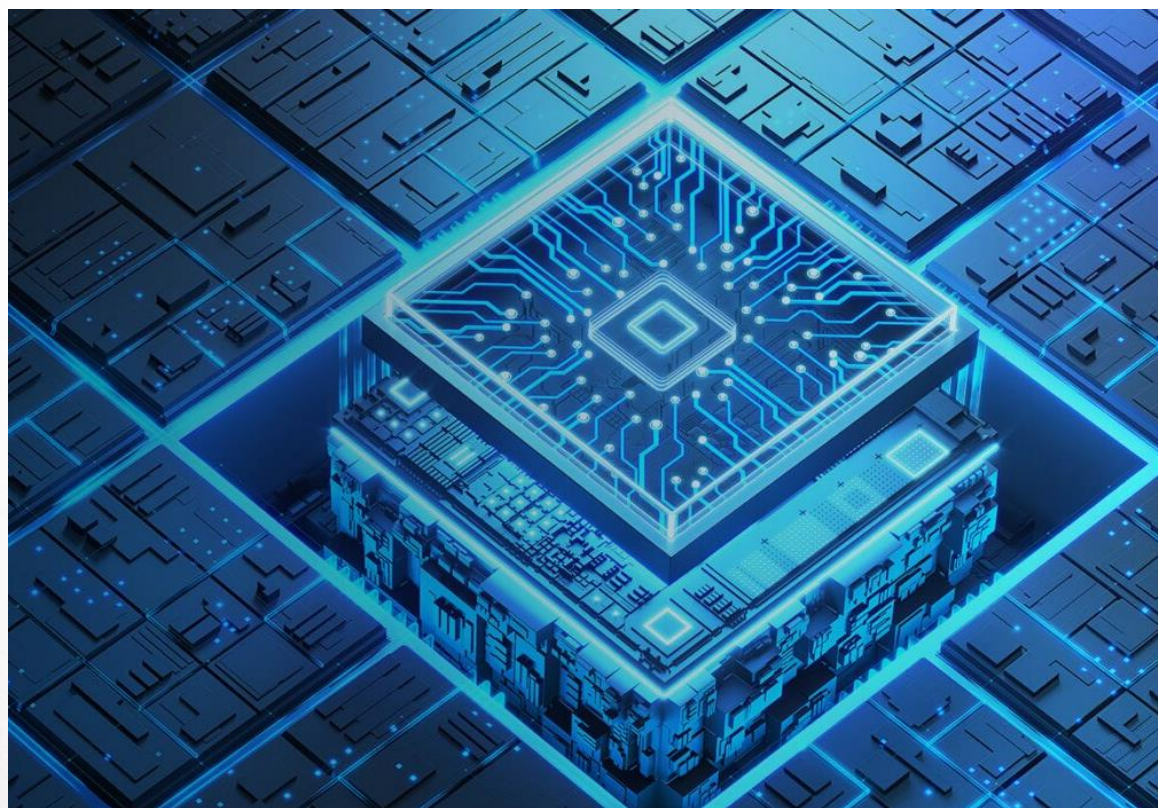
チップの出荷数の増加とロイヤルティ単価の上昇から、
ロイヤルティ収入は増加



- ✓ 半導体市場の成長
- ✓ 新たな分野において、アームの市場シェア拡大
- ✓ アームの高度な技術を多く用いた最新チップのロイヤルティ単価は上昇傾向に

サブシステムによる成長

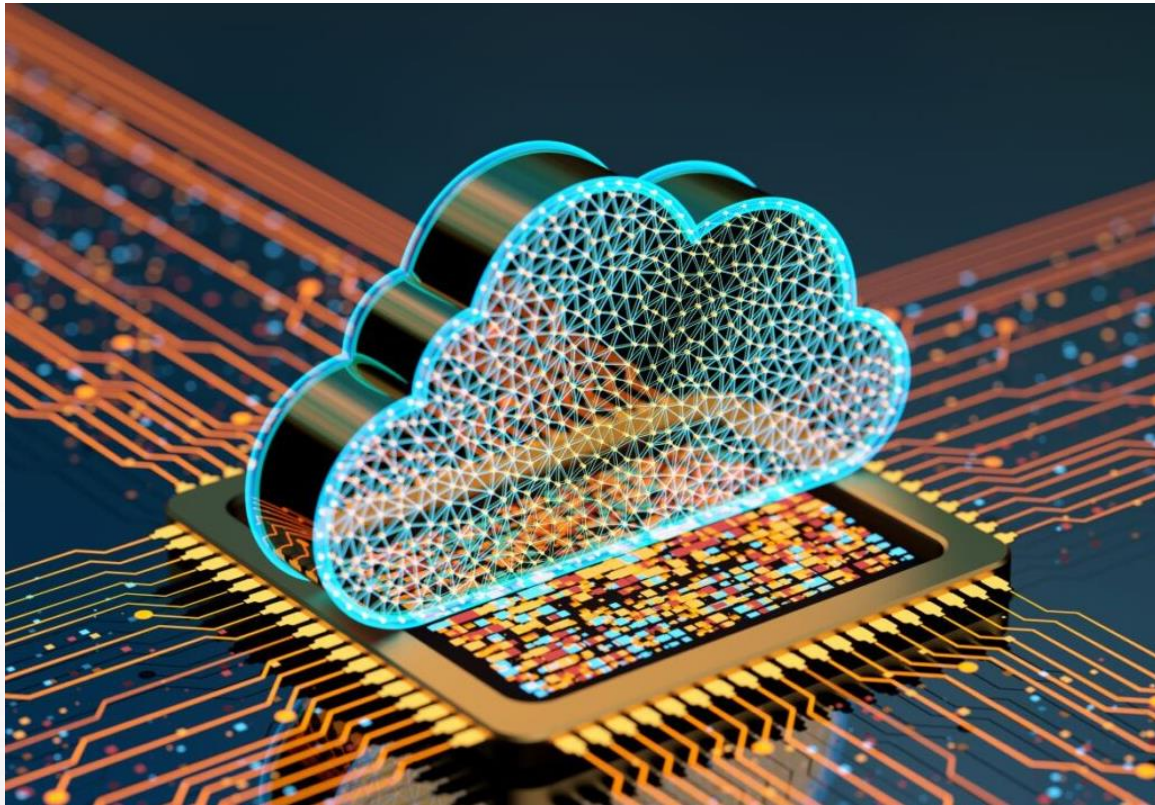
個々のIPライセンスではなく事前統合された複数のIPライセンスの組み合わせ(サブシステム)を提供



- ✓ 特定の市場や用途向けの開発コストを削減し、製品の市場投入までの時間を短縮
- ✓ アームのサブシステムをベースに開発されたマイクロソフトのクラウド向けAzure Cobalt CPUは、開発コストの削減に加え、ワットあたりのパフォーマンスが40%向上

AI需要の拡大による成長

サーバーから手元の端末に至るまでAIにはエネルギー効率が高く、高性能かつコスト効果の優れたチップが不可欠



- ✓ 高エネルギー効率かつ高性能
- ✓ 画像生成、リアルタイム翻訳などの生成AIや大規模言語モデル(LLM)のタスクへ対応
- ✓ アームベースチップで稼働するAIはすでに至る所に

世界最大級のネットワーク

arm

アームベースのチップをあらゆる製品で正常に稼働させるために、関係企業が協力する世界最大級のネットワークを構築

約 **70%**

世界の人口のうち、
アームテクノロジーを
使う人の割合

1,500 万人以上

アームベースチップ
の開発に携わる
関係者

1,000 社以上

アームベースチップ
の出荷までに関わる
パートナー企業

“AIは
あらゆる場所に”

“AIには
アームが
不可欠”

アームCEO レネ・ハース CES 2024での発言

1

会社概要

2

FY23Q3決算ハイライト

3

アーム

4

SVF

5

財務戦略

6

サステナビリティ

SVF: 投資損益 (2023年度Q3)

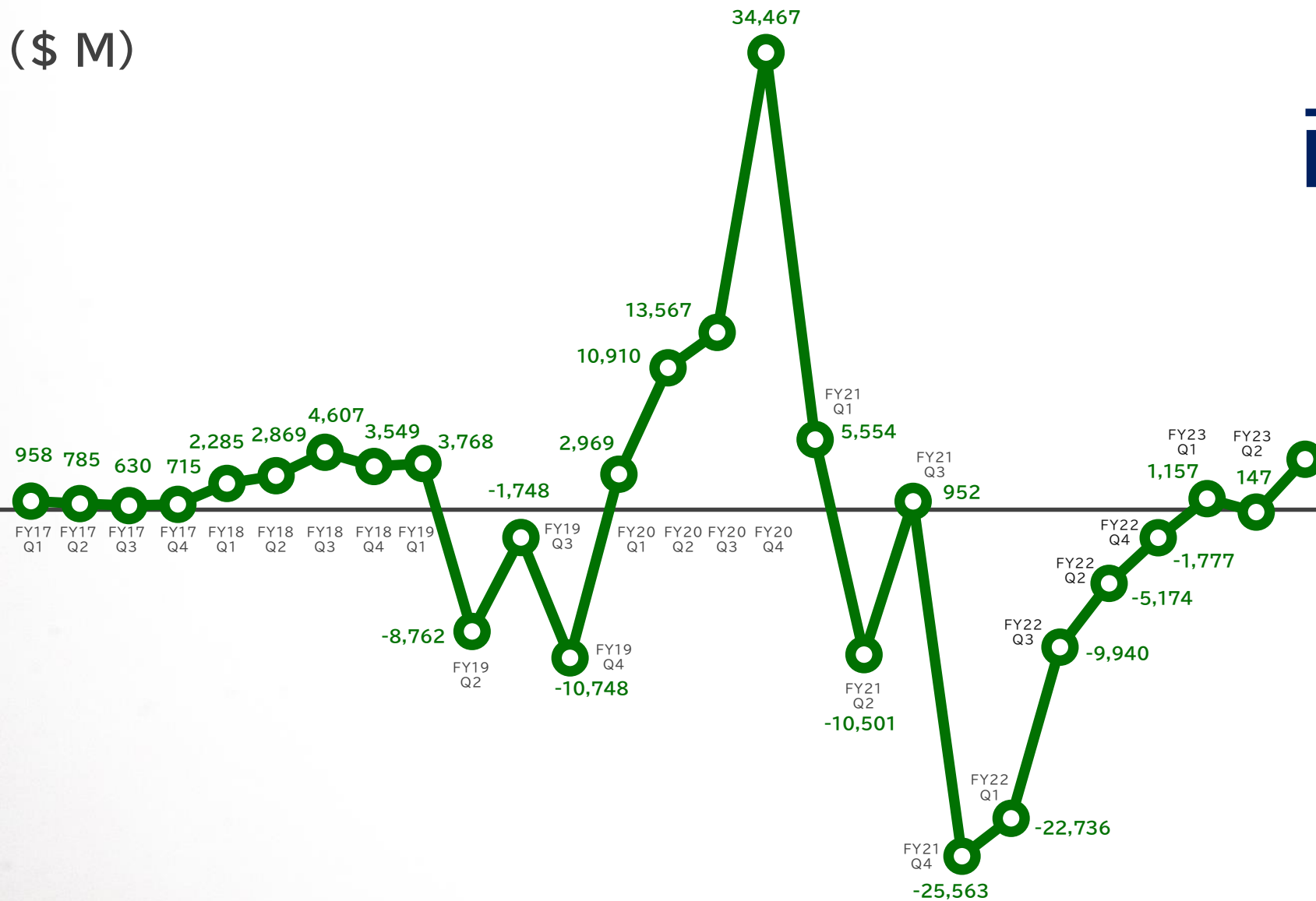
USDベース
(SVFセグメント)

| | | | |
|--------------------------|-----------------------------|--|------------------------|
| 合計 | SVF1 | SVF2 | LatAmファンド |
| | + \$1,940M ByteDance業績好調 | + \$1,703M ・公開投資先の株価上昇 ・未公開投資先の資金調達ラウンドでの評価額上昇 | + \$281M 公開投資先の株価上昇 |
| + \$4,087M (+6,007億円) | その他 | + \$163M | |

SVF: 投資損益 (四半期)

USDベース
(SVFセグメント)

(\$ M)



直近3四半期 連続の黒字

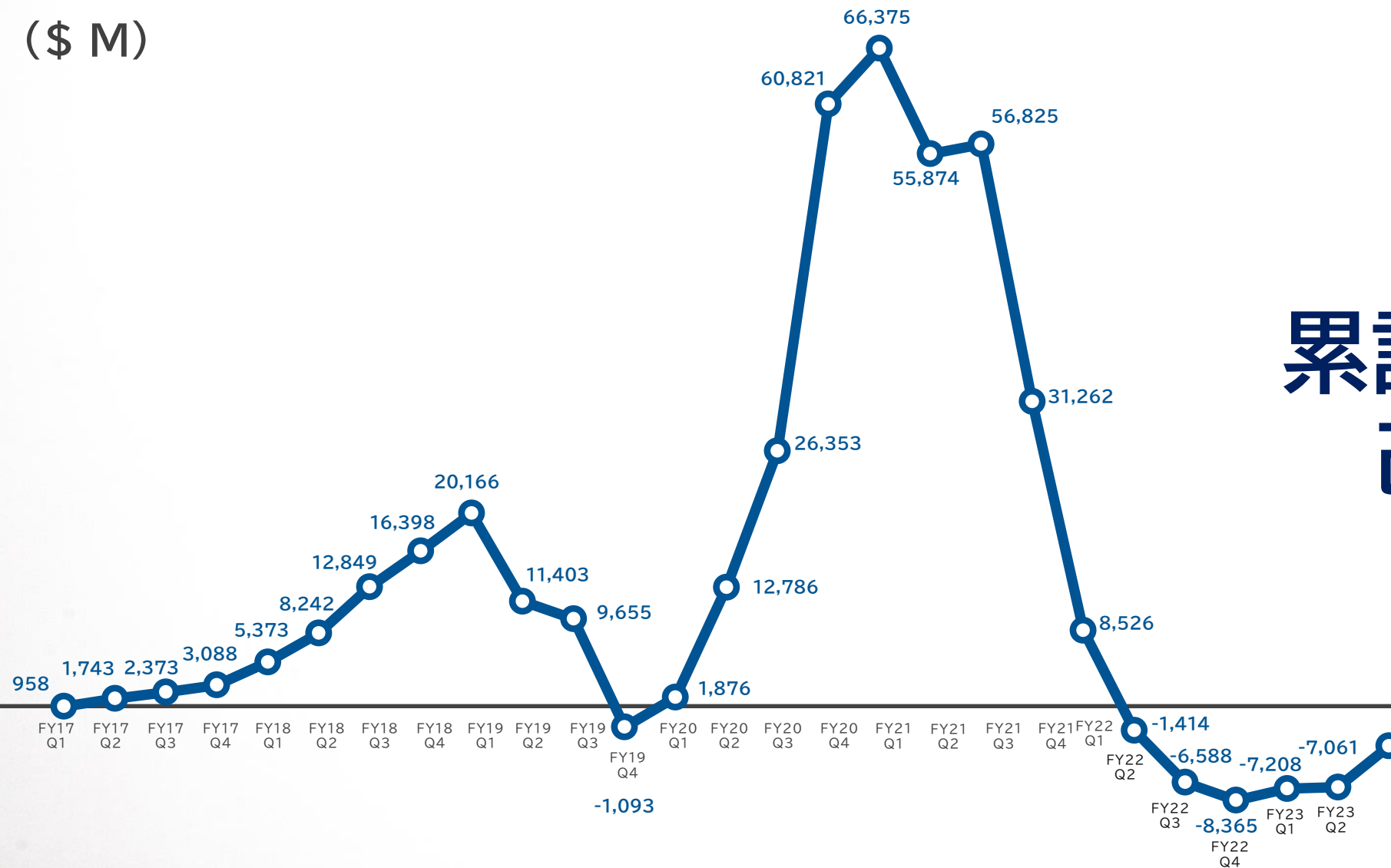
FY23Q3
4,087

投資損益(四半期):SVF事業からの投資損益(セグメント情報)の四半期計上額
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

SVF: 投資損益 (累計)

USDベース
(SVFセグメント)

(\$ M)



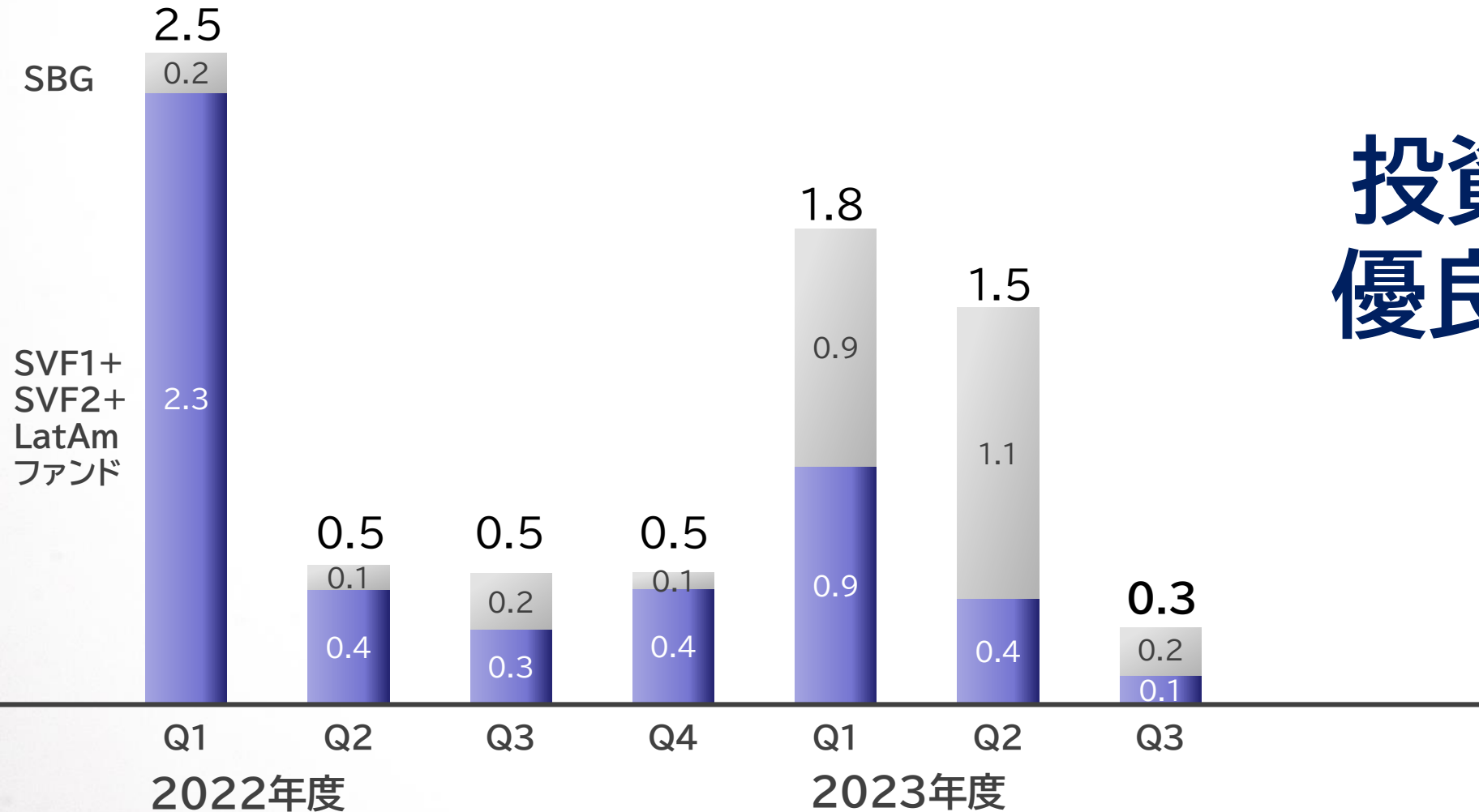
累計投資損益
改善続<

FY23Q3
-2,975

投資損益(累計):SVF事業からの投資損益(セグメント情報)の2017年度Q1からの累計上額
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

投資額の推移 (SVF1+SVF2+LatAmファンド+SBG)

(\$ B)



投資は再開、
優良案件発掘
に注力

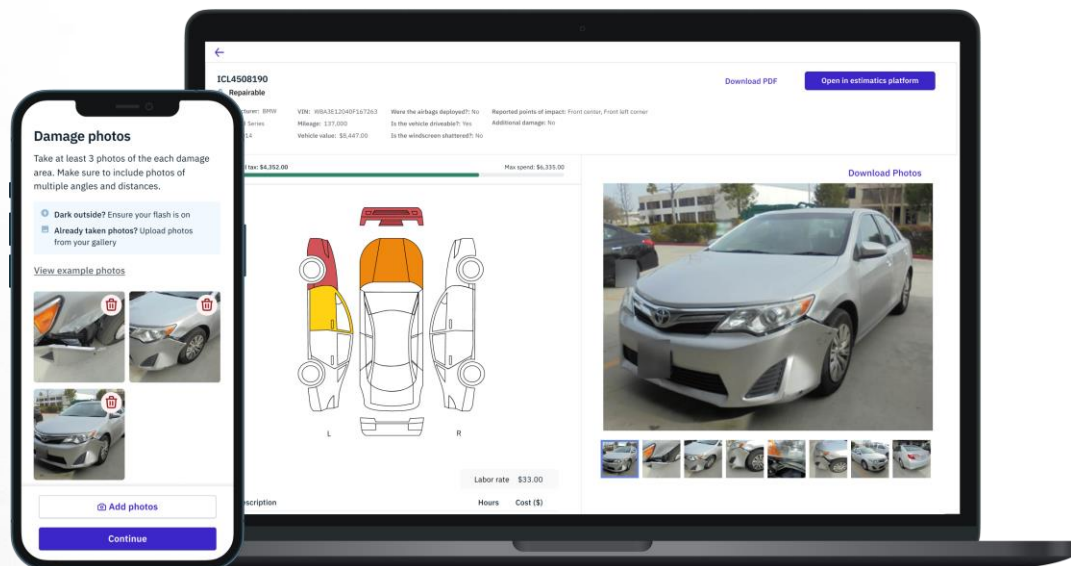
SBG投資額: SBGおよび主な100%子会社からの投資額(米国債への投資を除く)+Berkshire Grey(2023年7月)およびBalyo(2023年10月)の子会社化に伴う外部株主への支出額と両社が保有していた現金及び現金同等物との差額。グループ内取引に伴う投資額を除く。
SVF投資額: 新規および既存投資先への追加投資の合計。株式交換を含む。SBGからSVFへの移管に伴う投資額を除く。

SVF2: 最近の投資事例



Tractable

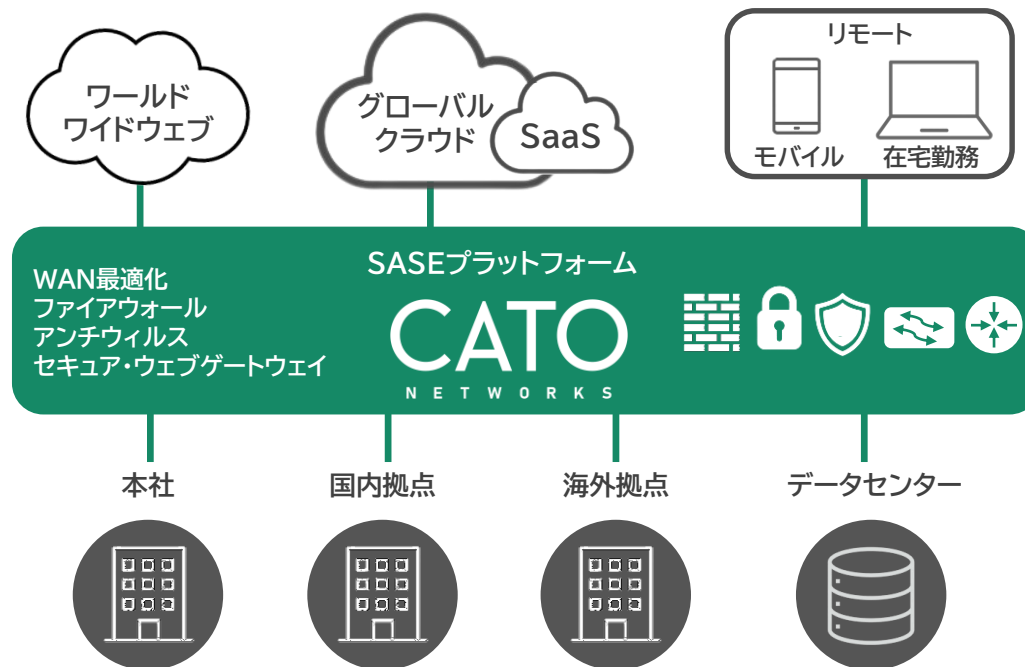
総額\$65Mの資金調達ラウンドを
SVF2がリード(2023年度Q2)



AIにより保険金請求や損害査定プロセスを自動化し、
スマホ画像から自動車/建物のコンディション評価や
正確な修理見積が可能



総額\$238Mの資金調達ラウンドに
SVF2が参加(2023年度Q2)



法人向けのすべての拠点、データセンター、ユーザー、
クラウドを安全かつ最適に接続するSASEプラットフォーム

1

会社概要

2

FY23Q3決算ハイライト

3

アーム

4

SVF

5

財務戦略

6

サステナビリティ

2023年度の財務戦略

財務方針の堅持

「守り」「攻め」
両面に対応
できる財務運営

財務方針の堅持

1

通常時 LTV25%未満 で運用（異常時でも上限35%）

2

少なくとも 2年分の社債償還資金 を保持

3

SVFや子会社から 継続的な配当収入 を確保

「守り」「攻め」に対応できる財務運営

更なるダウンサイド
にも耐える「守り」

財務の安全性を
維持しつつ
情報革命を牽引する
投資は実行

通常時 LTV25%未満で運用
(2023年12月末 LTV=11.5%)

少なくとも2年分の社債償還資金を保持
(2023年12月末 手元流動性=4.4兆円)

キャピタルアロケーション



バランスを
常に考慮

* NAVディスカウント水準も考慮事項

株価の変動要因

NAV
(時価純資産)



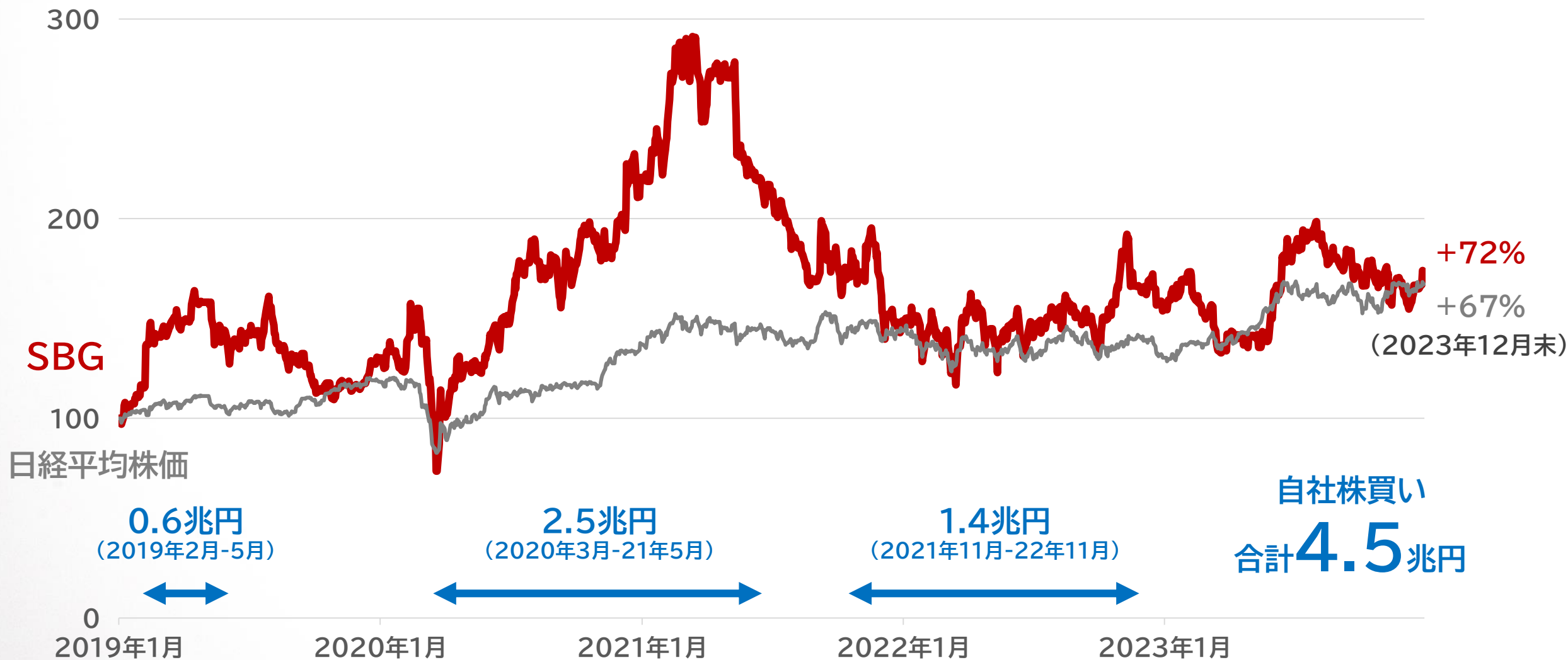
成長の実績

NAV
ディスカウント



NAVの方向性(投資戦略)
に対する信頼感

自社株買いと株価 (SBG vs 日経平均株価)



2019年1月1日を100として指数化
自社株買い:以下の各取締役会決議に基づく
2019年2月6日、2020年3月13日、5月15日、6月25日、7月30日、2021年11月8日、2022年8月8日

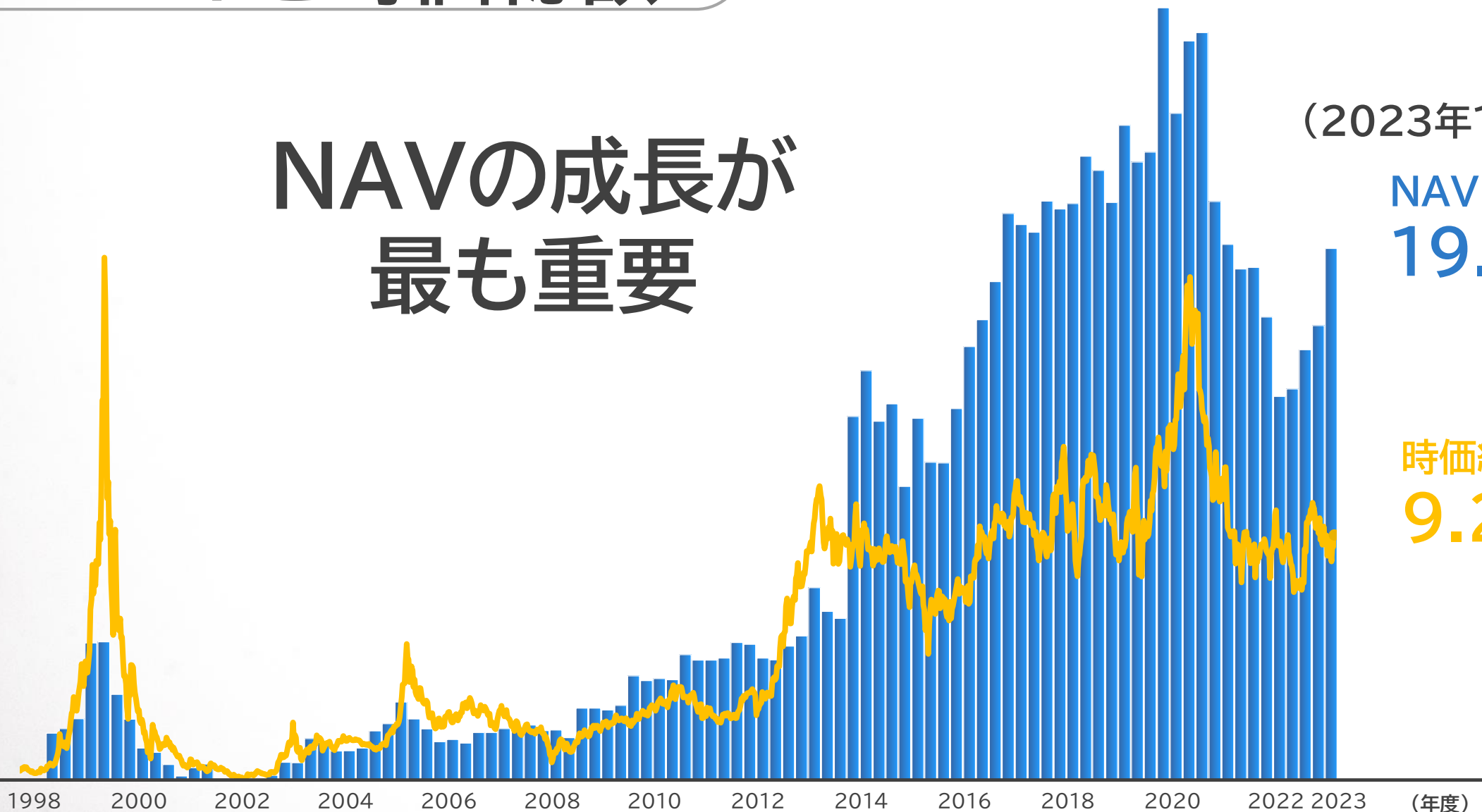
NAVと時価総額

NAVの成長が
最も重要

(2023年12月末)

NAV
19.2兆円

時価総額
9.2兆円



各四半期末時点

NAVの詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年12月末時点)」を参照
NAVに関する情報は、推移のイメージを説明する目的で提供される参考値であり、将来のNAVを保証・示唆するものではない。
時価総額: 自己株式を除く発行済株式総数を基に算出

いま何をすべきか？

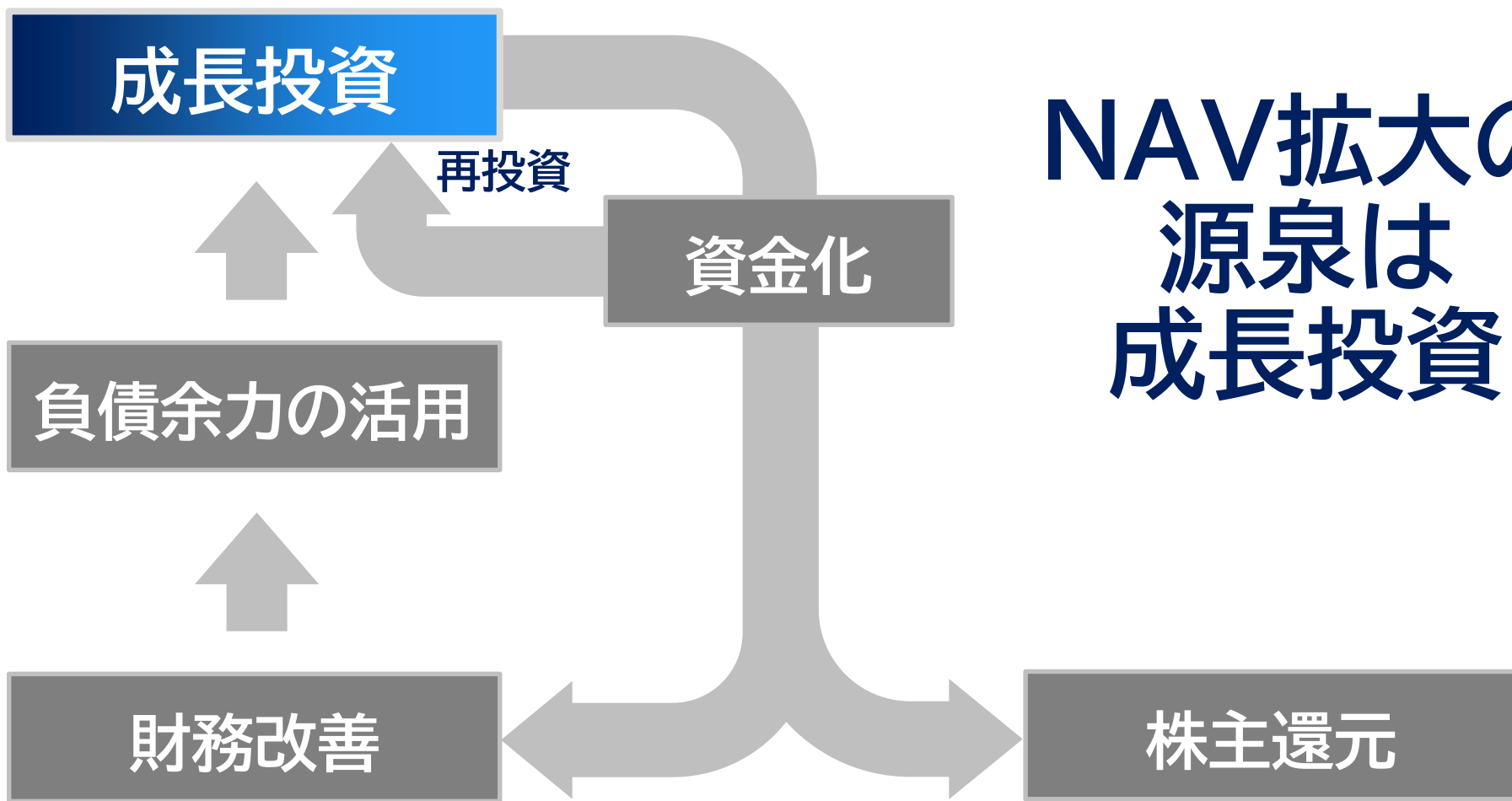
手元流動性

4兆円

兆円



Q3
2023年度



NAV拡大の
源泉は
成長投資

LTVは低水準を維持

過去5年で4.5兆円実施

手元流動性 = 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資 + 債券投資 + コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース (SB Northstarを除く。ただし現金及び現金同等物並びに債券投資は含む。)
株主還元: 以下の各取締役会決議に基づく自社株買い

2019年2月6日、2020年3月13日、5月15日、6月25日、7月30日、2021年11月8日、2022年8月8日

1

会社概要

2

FY23Q3決算ハイライト

3

アーム

4

SVF

5

財務戦略

6

サステナビリティ

経営理念とサステナビリティ

情報革命で人々を幸せに

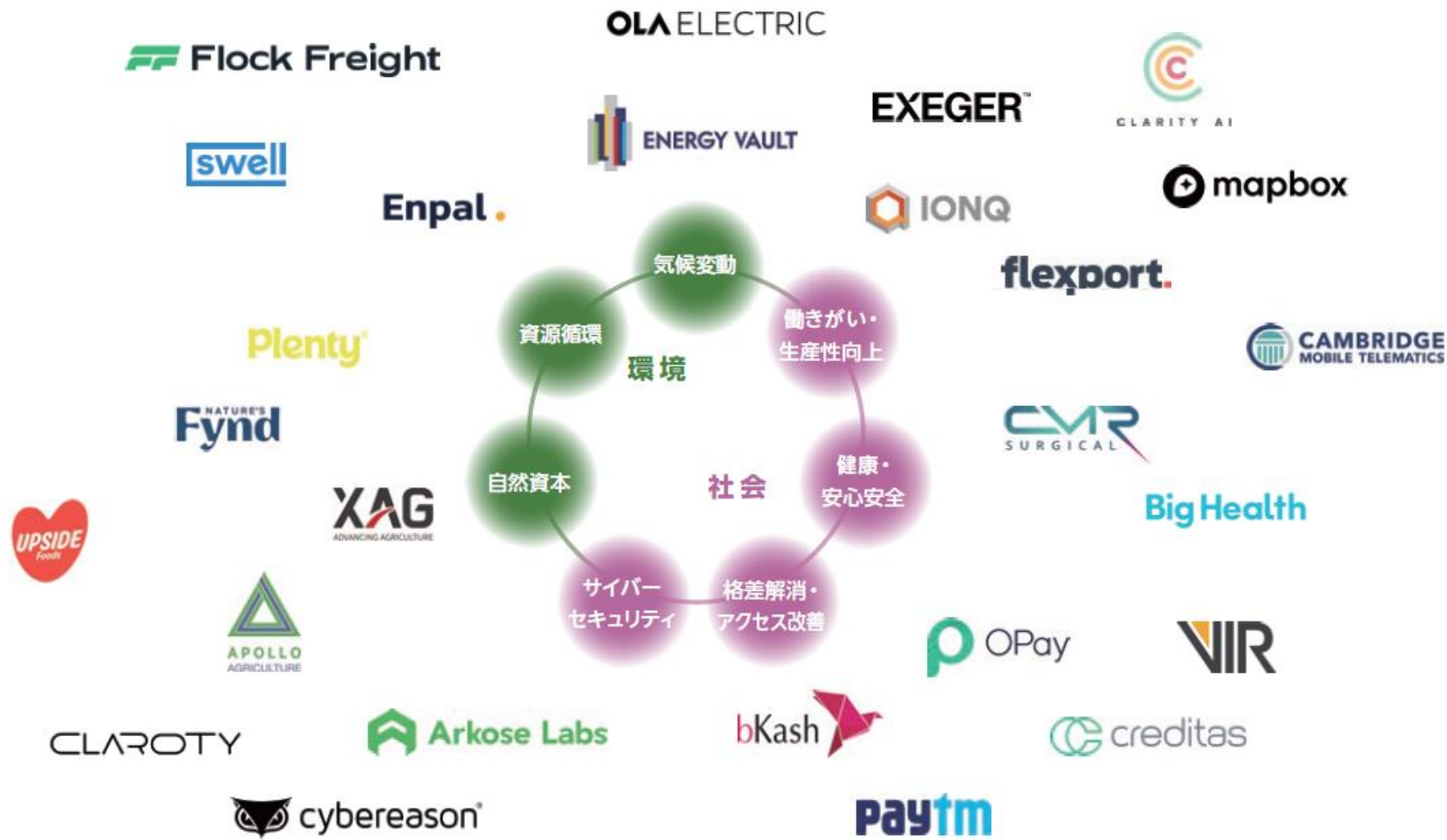
経営理念そのものに
サステナビリティへの想い



IT、AIへの投資を通じて
地球規模の課題解決に貢献

投資を通じた課題解決

様々な投資先が、環境・社会課題の解決に取り組む



サステナビリティの取り組み

責任あるAI



米国のNGO団体Responsible Innovation Labsが提唱する「責任あるAIへの自主的な取り組み」へSVFの運営会社*が署名

* SoftBank Investment Advisers(UK) Limited

ESGの評価指標

MSCI
ESG RATINGS



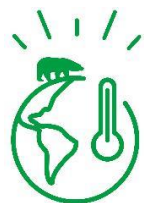
米国の著名インデックス(指標)提供会社
MSCIのESG評価において2023年11月に
「AA」評価を獲得

サステナビリティの取り組み

2022年度のハイライト

温室効果ガス削減にむけて

環境グループ目標



2030年度までに
カーボンニュートラル達成

ソフトバンクグループ

カーボンニュートラル達成

ソフトバンク

基地局使用電力の72.1%再エネ化

アーム

グループ使用電力の100%再エネ化

多様性への取り組み

ソフトバンクグループ

女性社員比率 45%

女性管理職比率 25%

男女の賃金差異 52%

男性社員育児休業取得率 88%

ガバナンスへの取り組み*

ソフトバンクグループ

社外取締役比率 56%

社外監査役比率 100%

* 2023年6月21日現在

情報革命で人々を幸せに



免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(以下SBGと併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものではありません。)に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなしADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBGの普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBGの開示は、スポンサーなしADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADRの取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBGIは、SBGの普通株式に関するスポンサーなしADRプログラムの設立又はそれに基づき発行されるADRの発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBGは、ADR保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBGが1934年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBGのホームページに、SBGが証券取引所法ルール12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づくSBGの普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG及び当社グループは、SBGの普通株式を表象するスポンサーなしADRIに関連して、ADR保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社やLINEヤフー株式会社などの、スポンサーなしADRプログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はSB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びそれらの関係会社を含むSBGの子会社(以下併せて「SBファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SBファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SBファンドは、他のファンド同様、SBIAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」)、SBGAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」)及びSBGAとその関係会社によって運用されているSBLA Latin America Fund LLC (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。

SBファンド(ビジョン・ファンド1及びビジョン・ファンド2並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SBファンド運用会社、SBファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるとかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報はSBファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又はSBファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SBファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連するSBファンド、本資料に言及されるその他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連するSBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連するSBファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SBファンド又はSBファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各SBファンド又は関連するSBファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SBファンド運用会社、SBファンドのポートフォリオ会社、SBファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はSBGが、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA及びSBIAは、ビジョン・ファンド1、ビジョン・ファンド2及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互にSBGからそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA又はSBIAによって運用されるSBファンドは、それぞれSBGA単独又はSBIA単独で運用されています。